

## 令和元年度 産業厚生委員会 行政視察報告書

報告者 下竹芳郎

日時：令和元年 10 月 30 日（水）13 時 30 分～

場所：愛知県東海市 しあわせ村 保険福祉センター

内容：いきいき元気推進事業について

- (1) 「めざせ健康寿命日本一」の取り組みについて
- (2) 事業の概要について
- (3) これまでの実績・成果について
- (4) 市民の参加・協力について
- (5) 事業の課題・今後の計画について

行政視察、初日に伺った東海市は、日本三大都市、名古屋の南側に隣接する人口 11 万 4 千人の鉄鋼業を主な産業とする鉄とランのまちである。

東海市の健康推進は、10 年程前に市民の平均寿命の県内での順位が低い、健康に対する意識が低いという事を問題視し、職員 42 人で「いきいき元気推進委員会」を設置して取り組みを始めた。

そこで健康応援ステーションという冊子を作り啓発し実行してもらうよう促した。健康診断とアンケートを元に一人ひとりに合ったアドバイスと運動と食生活の応援メニューを作るもので、医学的根拠の元、トレーニングをしたり、食生活を見直すというのである。食については、飲食店と管理栄養士が協力して開発したカロリーと塩分が低いながらも洒落たメニューもあるそうである。また、この事業は、のべ 6.366 人が体験している。

そして、この東海市はカゴメジュースの創業地であるため、トマトジュースを活用し 2014 年 9 月 17 日に「東海市トマトで健康づくり条例」を制定して毎月 10 日はトマトに日をつくりトマト食を奨励している。またトマトジュースで乾杯なるものをつくり、市民の健康づくりに一役買っている。極め付けは、「トマトジュースのでる蛇口」といって、どこでも飲める移動式の蛇口付タンクをつくってイベント等で盛り上げている。

そして、この取り組みをした結果、平均寿命は平成 27 年で男性 81.1 歳・女性 86.6 歳（枕崎 同 78.9 歳・86.3 歳）、高齢化率は平成 30 年度で 21.8%

（同 38.8%）、特定健診受診率は平成 28 年度で 47.2%（同 42.8%）、国民健康保険 1 人当たりの医療費は平成 28 年度で 317.808 円（同 30 年度 507.471 円）ということで軒並み全国平均を上回っている。

こういう取り組みは、周知はやっているが、なかなか実践してくれないことが多いが、ここ東海市は、民間企業・医療機関等いろんなところを巻き込んで市民が楽しんで、参加してくれるような仕掛けを行っている。

いいところは、どんどん真似ればよいと思う。我が枕崎も焼酎・お茶の産地なので、「焼酎・お茶のでる蛇口」をつくりイベント等に活用すれば健康づくりはもちろん観光面にも一役買うのでは、ないのでしょうか。

日時：令和元年10月31日（木）9時～

場所：静岡県焼津市 汐入下水処理場

焼津さかなセンター（視察のみ）

内容：下水道事業について

(1) 下水道事業財政状況について（使用料も含む）

(2) 下水処理について

- ・ 水処理・汚水処理の概要
- ・ 臭気対策・汚泥処理に対する課題や問題
- ・ 汚泥の資源化
- ・ 水産加工場の下水処理

焼津市は、静岡県の中央に位置し、遠洋漁業の基地として全国有数の水揚げを誇る人口14万人の水産都市である。

焼津の下水道の整備率は、平成30年度末で市街部を中心に約13万世帯中、約3万世帯で545ha、22.2%が整備されており、あと157haの事業計画区域があるが、国・県の方針転換、市も下水道だけに予算を付けられないということで計画を断念し白紙に戻すということである。

平成30年度、公共下水道事業決算の歳出額は、約24億8千6百万円で公債費が約6割を占め約14億9千万円で利息だけで2億円以上にのぼる。歳入額は、約25億2千7百万円で一般会計繰入金が53.1%、13億4千万円の内、基準外繰入が2億2千万、起債が23.3%で約5億8千万あり、収支差引が約4千万ということであった。

気になる臭気対策は活性炭吸着塔という設備を用い、約7.45億を費やし2基の脱水機を平成28年に新設して悪臭を改善している。施設の屋上に昇ってみたが全然気になる事は、なかった。

汚泥の資源化についても外部委託2社を使い、セメント資源化1,674t/年、肥料化953t/年というふうに少しでも環境にやさしい方法を取っている。

水産加工場の下水処理については、工場の大半が市郊外の下水道整備外にありグリスストラップ付の浄化槽を使っているため水質の中のBOD,SSが本市と比べても低い数値であった。

焼津市も技術者の人材不足、技術継承がうまくできていない等、財政面にしても、どこの自治体も下水道事業は厳しいということがわかった。

お昼時に焼津さかなセンターにおじゃまして、本市のセンターの10倍以上は、ある規模であった。ある場所においてもI.Cのすぐ近くで海、景観を無視して交通アクセスだけを考えて作っている。

日時：令和元年10月31日（木）15時～

場所：静岡県沼津市 沼津港

内容：「みなとオアシス沼津」に関する施策について

- (1) 沼津港の概要について
- (2) 施策の概要について
- (3) 経済効果・集客数について
- (4) 各団体との連携について
- (5) 施策の課題・今後の計画について
- (6) 「沼津水産祭」について

最後に伺った沼津市は静岡県の東部に位置し、北に霊峰富士山を仰ぐ。海、山に恵まれ農業、水産業、水産加工業の盛んな人口19万5千人の東部の中心的な施行時特例市である。

昨今、大変な賑わいをみせる沼津港は、平成12年に国土交通省から特定地域振興重要港湾に認定されてから、国・県の補助がつき港湾周辺整備が加速した。平成16年には防災と観光の二面性を持つ展望施設を備えた大型水門「びゅうお」が43億円かけて完成、平成19年には現在全国で132港ある「みなとオアシス」に認定され観光振興を推奨する港として、今なお整備され発展している。

この沼津港の活性化事業は建物等の整備、ハード面は国・県が莫大な予算をつけて、それを運営する組織的なことや、イベント等のソフト面は民間がやっているということで市は、それを管理するだけということだった。それが健全な方法だと思うが本市のような地方の田舎街では、なかなかそういうふうにはいかない。

特質するのは沼津港の観光客入込客数で平成30年度が約166万人、毎年右肩上がりです。駐車場の数が足りず、まだまだ駐車場を整備するとのことだった。さすが、都心から車で約1時間のアクセス、地の利なのかと思った。

また、沼津を舞台としたアニメ「ラブライブ！サンシャイン！！」が若者を中心に大人気になり、アニメの聖地と化した沼津に通称「アニオタ」という人たちが多数、押し寄せた。さすがテレビ・メディアの力は一過性のものとは思いますが、やはり力は絶大だ。

そして港周辺には、先程、説明した大型水門、東京築地の場外売り場を思い出さすような飲食店街や、みなと新鮮館、民間経営の深海水族館、レトロ感とおしゃれ感が融合した港83番地一帯、視察したのは平日の17時前だったので

人通りは少なかったが、土日や夜は、大変賑わっている様子は覗えた。

市民、来客者にも各種アンケートをとり、きめ細かくデータを分析して新規来客者・リピーターの獲得に活かしている。

今回、沼津港を視察させて頂き、また話をきかせて頂き、我が枕崎も規模も違うし地の利という部分も全く違うが同じ港町として見習う部分は多々あった。施設等のハード面は大きな予算を伴うので難しいが、人の手でできるソフト面、組織力、団結力、やる気やアイデアそして「おもてなし」「おもいやり」を駆使すれば観光面という点においても枕崎港(周辺・街)はいくらでも伸び代はある。